

2019年6月1～2日に行われた「青年自治研 in 北九州」での基調報告提案について、編集部
の責任で掲載します。

住民のため、自分のため、 いい仕事とは何だろうか、みんなで考えよう

自治労連青年部常任委員
柘植 陽介

はじめに

いまご紹介に預かりました自治労連青年部で常任委員をしています柘植と申します。

「青年自治研集会 in 北九州」は自分たちの仕事について語りたい、住民のためにいい仕事がしたい、という思いをもつ青年たちが共に語り合い、学びあい、つながる場としてはじまり、今回で6回目となります。



そもそも自治研とは何の略かご存知でしょうか？私も知らなかったのですが、調べてみますと「地方自治研究活動」を略して自治研と呼んでいるということです。

自治体の仕事は何のためにあるのか、職員は何をする人なのかを考える活動ということ。ちょっと難しいので簡単に言え

ば、今回のテーマであります「住民のため、自分のため、いい仕事とは何だろう」といったことをみんなで考えることとなります。

では青年自治研集会とは何かと言えば、文字通り青年同士で住民のため、自分のためいい仕事とは何だろうということを考えていく。さらには仕事についての思いや悩みを語り合っていくことで、これは労働組合でしかできない発想です。

みなさん、職場の同僚や上司と飲み会等をしたときも、好きなスポーツや趣味、気になる異性の話はしても、なかなか仕事の悩みを語り合う機会がないように思います。

年が近いからこそ話しやすい、共感しやすいそういう環境ですから、この青年の集会をいい機会にしてぜひとも語り合っていたきたいと思います。

住民のために仕事をすることは決して 忘れないで

みなさんはどうして今の仕事を選んだのでしょうか。生まれ育った地域をもっと魅

力あるものにしたい、今までお世話になった地域をよりよくしたい、住民のためにいい仕事をしたい、等々の思いがあったからではないかなと思います。私と同じ考えで職員になられた方はいっぱいいると思います。

ただ、今の職場の状況を思い浮かべると深刻な人手不足による長時間労働やサービス残業、賃金の抑制、様々なハラスメント、公務の民営化等々のさまざまな問題に直面し、住民のためにいい仕事をしたいと入職時の思いが奪われつつあります。それと同時に、私たちがいい仕事をするために働く職場、健康でやりがいを持ち続けられる職場というものがなくなってしまう状況に陥っています。

みなさん、今の自分の仕事を思い出してください。それはいったい何のためにしているか、課長、部長、首長のためなのか、はたまた中央省庁などの国のためにやっているのか。

私たちは公務員として全体の奉仕者であり、一部の奉仕者ではないということが、日本国憲法第15条に規定されています。したがって住民全体の奉仕者として、住民のために仕事をする必要があることは決して忘れてはなりません。

以上のことを踏まえ、今回の自治研集会では、住民にとって、自分にとっていい仕事とは何なのか、また、いい仕事をするために何が必要なのか、逆に住民にとって必要とされるいい仕事とは何なのかということ、いろんな角度から考え、語り合う集会にしていきたいと思います。

また同時に、私たち自身にとっても安心して健康でやりがいを持ち、働き続けられ

る職場とはいったいどういうものか、そのためには何が必要なのかということ、結論を出さなくてもいいので考えるきっかけにさせていただき集会にしたい。最後には、みなさんが参加してよかったな、明日からこうしてみようかな、そういうことを考える集会になればと思います。

目的として3つあり、ただ聞くだけではなく、参加型の学習を実践する機会にしていきたい。先ほども言いましたが、住民のためにいい仕事とは何なのか、いい仕事をするためにいい職場とはどういうものなのかを考える。また、組合の集会として労働組合がどういう立場を担うのか、ということを考える機会になればと思います。

きょうは全国から参加していただいた集会であり、地方組織同士の情報共有を密にし、さらには次世代育成の機会としていただきたい。

また、自治労連30周年の青年未来づくりプロジェクト（青プロ）のプレ企画となっており、その青プロへつながる企画にしていきたい。

青年自治研の目的と分科会について

この後、各分科会で青年をとりまく状況を話し合いますが、時間の関係の都合上、簡単な説明となります。

1つ目、「改正水道法」が2018年12月に成立し、公共サービスの民営化が大きく注目されました。こうした官から民への流れは多様化する住民ニーズへの柔軟な対応や公共サービスにかかる費用の削減という名目のもと、今後もさらに推進されていくことが予想されています。

こうした状況のなかで民営化や指定管理

者制度、公務のアウトソーシングの問題は、いったい何が問題なのか。それらによって住民やわれわれが得るものは何で、失うものは何なのか。民営化について基本的な知識を学ぶことから初めて議論を深めていただきたいと思います。

2つ目、5月23日に財務省から自治体職員が3万人削減することが可能だという衝撃的な記事が出ました。地方公務員の総数は2017年から削減されています。ただその一方で私たちを取り巻く社会情勢は複雑化の一途をたどり、住民サービスの需要は高まり続けています。

自治労連青年部が青年層を対象にして取り組んだ自治労連青年アンケートにおいても、慢性的な人手不足により厚生労働省の過労死ライン80時間も超える長時間労働者や不払い残業等の現状が明らかになっています。このような状況の中では住民の期待に沿う行政サービスを提供することは困難ではないでしょうか。

長時間労働の原因、不眠によって引き起こされる職場・職員の機能不全について議論をし、職場、組合で実践できる解決策をつくりあげていきましょう。

3つ目、地方自治体の仕事は究極のサービス業であると言われておりまして、全体の奉仕者として時には誰かの不利益になるような決断をしなければならないこともあります。そういった状況のなかで多様化する住民ニーズにこたえるべく、業務に取り組んでいる私たちの仕事はどうあるべきなのか。誰のために、何のためにあるべきなのか。住民とは、公務とは、お客さまとは…。こう言った言葉の本来の意味から、私たち仕事について考えていきたいと思いま

す。

4つ目は、私たちの職場には事務職、保育士、調理員、助産師、看護師等々、さまざまな職種が勤めています。ただそういった中で職場・職種間の交流は十分とは言えません。また、出先職場を中心に十分な引き継ぎもなされないまま異動して、働きはじめなければならない。そういう状況におかれている青年もおります。

今回、さまざまな職場・職種から参加があるもと、事務職と専門職の仕事の内容の違いから本庁と出先職場の違いなど、住民のために働く私たちが仕事の内容や悩みを共有できる、仕事について語り合える場をこの集会でつくっていただければと思います。

5つ目、総務省が「自治体戦略2040構想」を出しています。これはAIを活用した職員の半減化、自治体がすべての住民サービスを担うフルセット主義からの脱却。また、基礎自治体からの圏域単位での行政の転換等を打ち出し、いま議論を進めています。

今後、私たちの働く自治体のあり方が変わっていく中で、私たち青年には影響をあたえる可能性が多いもと、明日から何をするのかということを見つけていただきたいと思います。

6つ目、今、私たちの職場では深刻な人手不足の影響で長時間労働やサービス残業が増加し、休暇がまったく取得できない現状があります。とくに病院職場や保育職場では有給休暇の取得が1日、または2日といった職員さえいる状況です。

これらの問題は人手不足ということなので、人員が増えれば解決するかもしれない

のですが、簡単に人は増えません。そういった中でコミュニケーションやチームワークに焦点を当て、問題を解決できるのではないかということをおぼえて、考えていければと思います。

7つ目、会計年度任用職員制度が来年の4月からはじまります。総務省が2018年12月に行なった調査ではなんと6割以上の市町村において関係条例の議会提出を今年の9月に予定しており、いよいよ待たなしの状態です。

この制度が始まったときに私たちの現場で働き方がいったいどう変わるのか。制度について語りあうことで、正規・非正規の職員が立場を問わずともよい仕事をするためにはどうしたらいいのか。こういったことを考えていきましょう。

今、現状と分科会でやっていただくことをお話しましたが、分科会は明日あります。とにかく分科会では話し合いを重視していきたい。

過去の青年自治研集会では、青年が「自分の仕事について語りあうことが楽しかった」「自分の仕事や青年部の活動に役に立った」等の意見が非常に多く聞かれました。今回の自治研集会でも自分の職場について語り合うことを重視し、全国の仲間のお話を聞き、自分の職場との共通点や違い、そういったところを感じながら私たちの仕事について考えていきたいと思っています。

青年自治研での経験をひろげてほしい

今回参加していただいた青年自治研の経験を、各単組においても広めていただきたい。今回の経験を通して、私たちが公務の仕事に自信をもち、胸をはれる、またはや

りがいを感じられる。そういった職場にしていきたいと思います。また、経験を広めるために具体的な取り組みについて3つお話しします。



1つ目、青プロを成功させていただきたい。青プロの目的というのは4つあります。1つ目は全国の仲間との交流、2つ目はつながりを広げて仲間を増やす。3つ目が次世代育成をする。4つ目が行政などの問題意識をもって自治体労働者としてのあり方を学んでいただく。この4つが青プロの目的です。

この青年自治研の目的とも合致する点が多いのですが、今回の青年自治研の経験を生かして私たちが職場について語り合える機会を広げるとともに、青プロに向けて各ブロック、各県、また各単組において継続して青年が集まり、交流できるイベントを企画していただきたい。

2つ目。先ほどお話しましたが、来年から会計年度任用職員制度が始まります。2019年国民春闘の重要課題の1つに、正規・非正規すべての労働者の賃上げと格差の是正があがっています。正規だろうが、非正規だろうが、関係ありません。同じ職場で働く仲間ですので、ともに職場の改善に向けて取り組みを進めていただきたい。

そして最後、青年の声をもとにして是非とも要求書を出していただきたいと思いま

す。これが一番難しいことなのだと思うのですが、要求はどうやって吸い上げるのかというのが一番の問題でして、これはアンケートでもかまわないと思います。

昔の映画に「事件は会議室で起きているのではない。現場で起きている」という言葉がありますが、要求というものは現場にあるのだと思います。現場の声をアンケートでもいいので吸い上げていただいて、それをまとめて青年の要求として1つにまとめる。それを当局に提出する。そういったようなことを今後、取り組んでいただきたいと思っております。

以上が基調報告ですが、この報告を聞いて意識が高いと思った方がいるかもしれません。しかし、せっかくこういう2日間の集会に参加してきたのだから、1年間のうちのたった2日間のこの集会を意識高く語り合える、考える場としていただくことをお願いします。ともにがんばりましょう。